

2019年度第6回価格審査会の開催について

2019年度第6回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	2019年9月13日(金) 10:00 ~ 11:30	
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	桜井 力	一般財団法人日本建設情報総合センター コリンズ・テクリスセンター長
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：小林 法雅
	第一土木調査部	部長：高橋 俊一
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一、課長：島田 理久
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2019年度第5回価格審査会議事録(案) 確認

2019年度第6回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号、「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号の価格動向
・	価格が上昇した資材は、摩擦接合用高力ボルト(全都市)、セメント(バラ)(金沢、宮崎)、レディーミクストコンクリート(室蘭、北見、岩見沢、網走、苫小牧、根室、由利本荘B、会津若松、いわき、喜多方、土浦、取手、筑西、足利、前橋、高崎、桐生、太田、渋川、館山、糸魚川、魚沼、南魚沼、静岡、沼津、富士宮A・B、島田、富士A、B、藤枝、御殿場、小山、宇治、木津川、奈良、五條、御坊、田辺、日高川B、美波、高松、丸亀、坂出、観音寺、さぬき、宇和島、大洲、大牟田、久留米、柳川、八女、鳥栖、那覇)、再生砕石・再生砂(室蘭、盛岡、高崎、宮古島)、アスファルト混合物・再生アスファルト混合物(安芸、須崎)、配水管用亜鉛めっき鋼管(全都市)、鉄スクラップ【ステンレス】(関東、中部、近畿、中国、四国の各都市)などであることを説明。
・	価格が下落した資材は、異形棒鋼(関東、中部、九州の各都市)、平鋼(大阪、広島、高松、福岡、那覇)、伸銅品(全都市)、再生砕石・再生砂(福岡)、コンクリート型枠用合板(北海道、四国を除く各都市)、燃料油【軽油ローリー渡し】(中国、四国を除く各都市)、鉄スクラップ【鉄】(全都市)、非鉄スクラップ【銅】(全都市)などであることを説明。
2.	注目資材
・	コンクリート型枠用合板【東京】
・	鉄筋工事(建築市場単価)【東京】
3.	比較資料
・	企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	太陽光発電設備（パネル、架台等）は建設物価に掲載されているか。	太陽光発電設備（パネル、架台等）については掲載していない。関連資材として掲載しているのは電線のみである。
審議 2	東日本と西日本で生コン価格の値上げ幅に差がみられるのは、地域性によるものなのか。	生コン協組が1回当たりに打ち出す値上げ額は、ここ数年、西日本が東日本より大きい傾向にある。
審議 3	建築工事市場単価の型枠工の最大変動率が25%となった理由はなにか。	甲府、長野地区で型枠運搬費の掲載価格が200円から250円に上伸したことによる。
審議 4	建築工事市場単価の仕上工事が大きく上伸したが、特に最大変動率と最小変動率の差が大きいアスファルト防水工、軽量鉄骨下地工事、内装床工事では、特定の地域が影響を与えたということか。	特定の地域が影響を与えたわけではなく、規格による変動率の差が生じた結果である。今後は、内装工事等の仕上げ工事が全盛期を迎える特定の地域で他地区と異なる市況動向になる可能性がある。
審議 5	東京17区の生コンで、協組は新たな値上げを年明けに表明する方針とあるが、具体的な金額などの情報はあのか。また前回打出した値上げは達成したということか。	協組は、前回の値上げがほぼ達成されたものとして、改めて値上げをしたい意向であるが、今のところ金額などは発表されていない。今後、時期、価格について正式な発表があると思われる。
審議 6	大阪地区の生コンはここ数年で急激に上伸したが、特に大きな需要があるとも思えない局面でなぜ大幅な値上げが達成できたのか。	大阪府全域と兵庫県大半をエリアとする広域協組が、原材料価格や輸送コストの上昇などを理由に、員外社を協組に取り込むなどで強固な共販体制を構築し値上げを進めた結果、大阪地区では3年超で計7,000円の値上げとなった。
審議 7	機械式継手には、地域による価格のバラつきがそれ程ないと思われるが、最大変動率と最小変動率の差が大きくなったのは、規格によるバラつきと考えていいか。	機械式継手には、複数の種類が存在し、今回、ネジ節鉄筋継手で1割程度、圧接ネジ継手で2割程度上伸した。最大変動率と最小変動率に生じた差は、継手の種類によって値上げ幅が異なるもので、地域性によるものではない。
審議 8	コンクリート製品は、多くの地区で上伸している。今後もメーカーの値上げが浸透して上伸する傾向にあるのか。	協組が主体的に販売している地域では値上げが浸透しやすい傾向にある。全国的には、運転手不足に伴う物流コスト高の状況もみられるが、地域ごとに状況が異なるため一概には言えない。
審議 9	土木工事市場単価の鉄筋工で宮城地区の単価が下落しているが、復興需要が終わったと考えていいのか。今後は東京水準まで下落する見込みか。	復興需要は収束しつつあると考えている。どこまで下落するかは何とも言えない。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 10	<p>建築工事市場単価について、「入稿情報」では建築工事需要の盛り上がりが見える一方で、「市場単価の動向」では先行きに盛り上がりを見られず、建築工事需要は実際にはどういった状況なのか。</p>	<p>「入稿情報」では、仕上げ関連工種で全国的に労働需給が逼迫して価格が上伸した状況をコメントした。「市場単価の動向」では、価格の動きが低調な東京地区の躯体関連工種の状況をコメントしている。</p>
審議結果	<p>「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上